

2013年度リエゾンゼミⅡの教育効果に関するアンケートの結果（報告）

FD委員会

I. アンケートの概要

2014年1月から2月に2年生を対象にユニパのアンケート機能を用いて実施した。アンケートは、回答者の属性、施設・設備等の利用状況、学士力達成度（19項目、キャリア形成への取り組みを含む）、専門性（3項目）、意欲（2項目）、諸活動に書ける時間に関する項目（8項目）より構成されている。489名の回答が得られた（回答率37.1%）。

II. 全体の傾向

1. 回答者の属性と施設・設備等の利用状況

回答者の学科構成を表1-1、属性を表1-2に、施設・設備等の利用状況を表2に示す。

表1-1 学科

学科名	度数	%
社会福祉学科	141	28.8
社会教育学科	51	10.4
福祉心理学科	51	10.4
産業福祉マネジメント学科	42	8.6
情報福祉マネジメント学科	40	8.2
子ども教育学科	66	13.5
保健看護学科	27	5.5
リハビリテーション学科	39	8.0
医療経営管理学科	32	6.5
総計	489	100.0

表1-2 属性

項目	カテゴリ	度数	%
性別	男性	145	29.7
	女性	343	70.1
	無回答	1	0.2
入試形態	AO入試	51	10.4
	推薦入試	138	28.2
	一般入試	298	60.9
	無回答	2	0.4
居住形態	自宅	209	42.7
	自宅以外	278	56.9
	無回答	2	0.4
部・サークルの所属	無	137	28.0
	有	351	71.8
	無回答	1	.2
ボランティア活動	無	166	33.9
	有	321	65.6
	無回答	2	.4
国際交流経験	無	454	92.8
	有	30	6.1
	無回答	5	1.0
アルバイト経験	無	92	18.8
	有	396	81.0
	無回答	1	.2
キャリアデザインⅡの履修	無	439	89.8
	有	46	9.4
	無回答	4	.8
実学臨床教育（総合福祉学部のみ）	無	221	90.9
	有	20	8.2
	無回答	2	.8
副専攻の履修（総合福祉学部、総合マネジメント学部のみ）	無	263	80.9
	有	25	7.7
	無回答	37	11.4

表2 利用状況		なし	たまに	ときどき	頻繁に	無回答
図書館	度数	23	126	220	120	0
	%	4.7	25.8	45.0	24.5	0.0
美術工芸館	度数	414	55	15	5	0
	%	84.7	11.2	3.1	1.0	0.0
キャリアセンター	度数	344	108	31	5	1
	%	70.3	22.1	6.3	1.0	0.2
保健室・ウェルネス支援室・学生相談室	度数	319	141	24	4	1
	%	65.2	28.8	4.9	0.8	0.2
コミュニケーションタイム	度数	439	32	10	4	4
	%	89.8	6.5	2.0	0.8	0.8
UNIPA クラスプロファイル機能	度数	135	203	99	50	2
	%	27.6	41.5	20.2	10.2	0.4
Webテキスト「リエゾンゼミ・ナビ」	度数	347	124	14	2	2
	%	71.0	25.4	2.9	0.4	0.4
tfuマイカルテシシステム・tfu元気点検道場・tfu元気点検票かるた	度数	428	56	3	1	1
	%	87.5	11.5	0.6	0.2	0.2

2. 学士力達成度・専門性・意欲の伸び

2年次進級時と比した学士力達成度、専門性、意欲の伸びについて、項目順にまとめたものを図1-1、伸びの程度順にまとめたものを図1-2に示す。

これら24項目はいずれも平均値3.5以上（伸びたことを意味する）であった。特に「社会規範の順守」「他者との協働・協同」「学習意欲」に関する伸びが大きいことが示された。一方で「分析・解決」「レポート表現」に関する事項は相対的に低い達成度となっている。

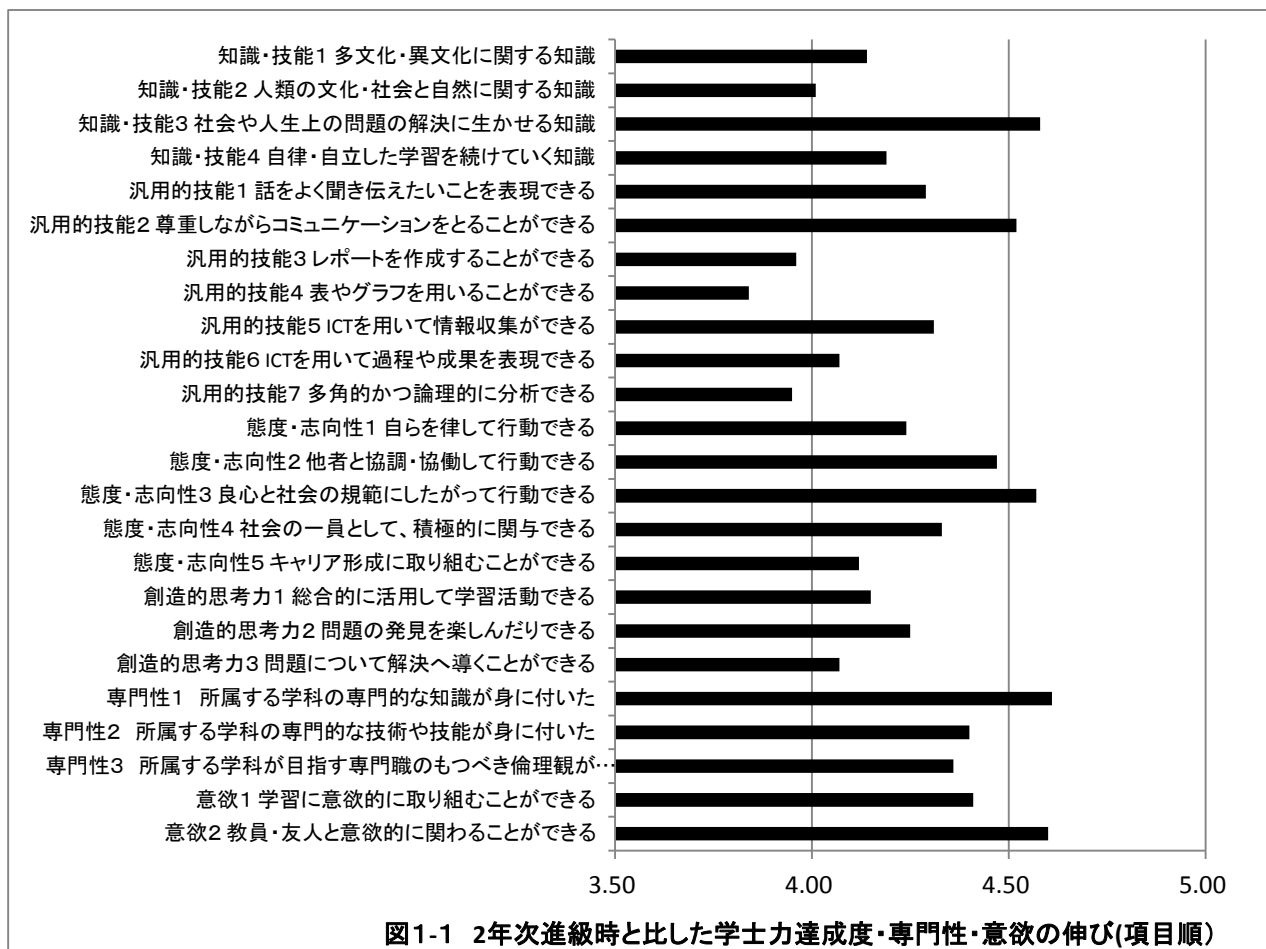
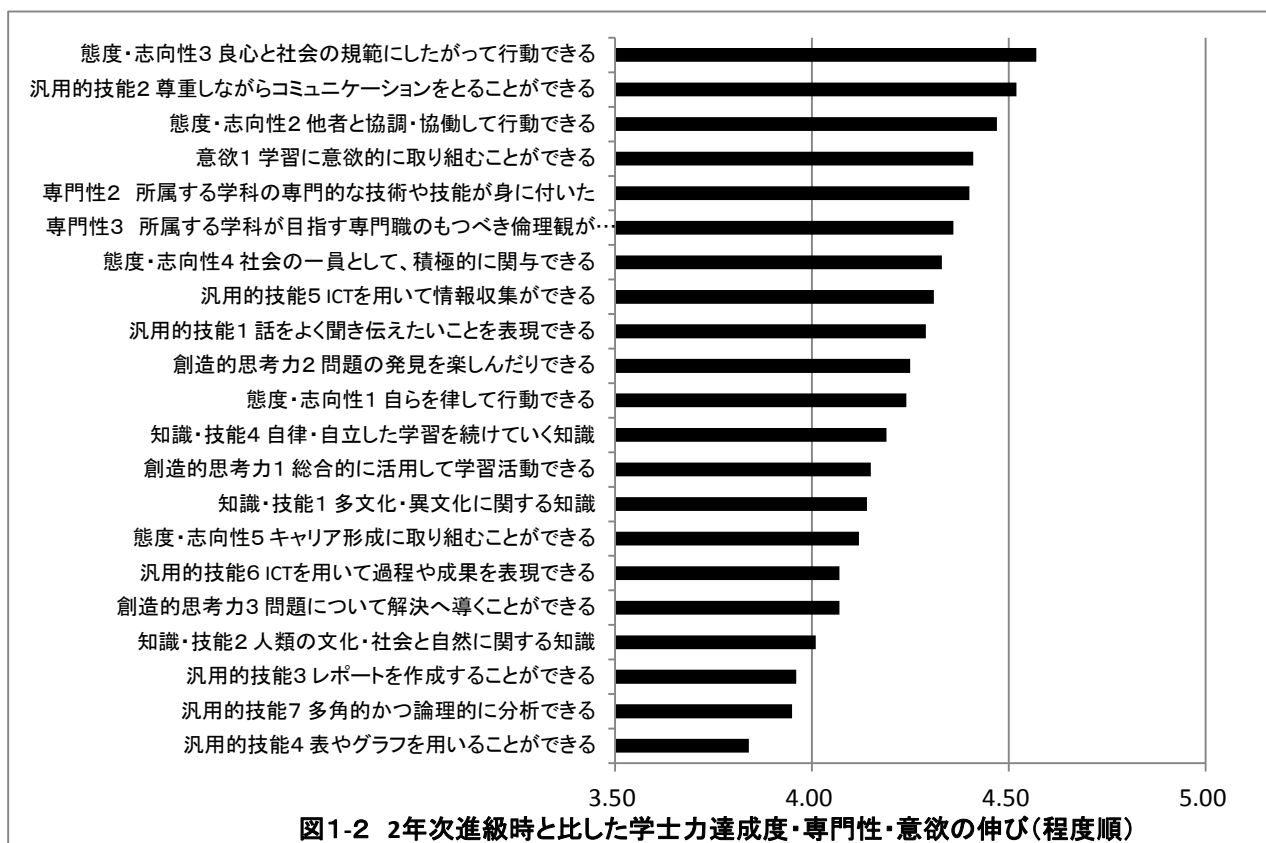


図1-1 2年次進級時と比した学士力達成度・専門性・意欲の伸び(項目順)



3. 諸活動時間

1週間当たりの諸活動にあてる時間について表3にまとめた。各項目において10%を超える時間帯を太字と表現している。これらを見ると、授業に出席している時間が最も多いのは当然のこととしても、次いで多いのはアルバイトに充てる時間であった。次に、予復習に関して、まったく行わないものも1割見られるが、およそ8割の者が「1時間未満～5時間以下」の範囲に入ることが示された。

表3 1週間あたりの諸活動時間

		0時間	1時間未満	1～2時間	3～5時間	6～10時間	11～15時間	16～20時間	20時間以上	無回答
履修している授業の予習や復習をする	度数	39	178	144	80	23	13	1	5	6
	%	8.0	36.4	29.4	16.4	4.7	2.7	0.2	1.0	1.2
授業に出席する	度数	1	3	6	24	28	74	129	211	13
	%	0.2	0.6	1.2	4.9	5.7	15.1	26.4	43.1	2.7
オフィスアワーを利用するなどして、授業時間以外に教員と面談する	度数	265	155	42	11	1	2	5	4	4
	%	54.2	31.7	8.6	2.2	0.2	0.4	1.0	0.8	0.8
読書をする(予復習のための教科書・専門書を除く)	度数	97	165	117	57	23	8	1	16	5
	%	19.8	33.7	23.9	11.7	4.7	1.6	0.2	3.3	1.0
新聞を読む	度数	231	179	47	18	6	0	0	4	4
	%	47.2	36.6	9.6	3.7	1.2	0.0	0.0	0.8	0.8
インターネットでニュースを調べる	度数	51	170	144	78	21	7	4	10	4
	%	10.4	34.8	29.4	16.0	4.3	1.4	0.8	2.0	0.8
ボランティア活動をする	度数	165	108	73	73	28	9	6	21	6
	%	33.7	22.1	14.9	14.9	5.7	1.8	1.2	4.3	1.2
アルバイトをする	度数	102	14	14	57	84	73	56	81	8
	%	20.9	2.9	2.9	11.7	17.2	14.9	11.5	16.6	1.6

4. 属性と学士力達成度・専門性・意欲の伸び

学士力達成度・専門性・意欲の伸びと統計的に有意に関連がみられた属性は、表4の通りであった。

2年次においては、「部活動」と「国際交流」の体験が学士力の形成に寄与していることが示された。また、それらに加えて「ボランティア活動」「アルバイト」が対人的な関わりの側面において意欲の形成に寄与していることが示された。

		性別	入試形態	居住形態	部活動・サークル	ボランティア活動	国際交流	アルバイト	ゼミ・キャリアアデ	実学臨床教	副専攻
知識・技能	多文化・異文化に関する知識				無<有		無<有				
	人類の文化・社会と自然に関する知識										
	社会や人生上の問題の解決に生かせる知識		推薦、一般<AO								
	自律・自立した学習を続けていく知識						無<有				
汎用的技能	話をよく聞き伝えたいことを表現できる				無<有		無<有				無<有
	尊重しながらコミュニケーションをとることができる				無<有		無<有	無<有			
	レポートを作成することができる										
	表やグラフを用いることができる										
	ICTを用いて情報収集ができる										
	ICTを用いて過程や成果を表現できる										
態度・志向性	多角的かつ論理的に分析できる						無<有		無<有		
	自らを律して行動できる		一般<推薦								
	他者と協調・協働して行動できる				無<有						
	良心と社会の規範にしたがって行動できる										
	社会の一員として、積極的に関与できる		一般<推薦、AO		無<有	無<有					
創造的思考力	キャリア形成に取り組むことができる										
	総合的に活用して学習活動できる										
	問題の発見を楽しんだりできる						無<有				
専門性	問題について解決へ導くことができる						無<有				
	所属する学科の専門的な知識が身に付いた		推薦<AO				無<有				
	所属する学科の専門的な技術や技能が身に付いた	男<女	推薦<一般<AO								
意欲	所属する学科が目指す専門職のめづべき倫理観が身に付いた		推薦<一般<AO								
	学習に意欲的に取り組むことができる										
	教員・友人と意欲的に関わることができる				無<有	無<有	無<有	無<有			

5. 施設・設備の利用と学士力達成度・意欲の伸び

学士力達成度・意欲の伸びと統計的に有意に関連がみられた施設・設備の利用は、表5の通りであった(表中数値は順位相関係数)。有意な関連が示された部分では、弱いながらも正の相関が示されていることがほとんどであり、施設・設備の利用が学士力・専門性・意欲に対して正の影響を及ぼしている(利用する者のほうが利用しない者よりも伸びを高く示す)ことが、弱い関係ながらも示されたと言えよう。特に「図書館」「キャリアセンターの利用」「教員とのコミュニケーション・タイムでの面談」が学士力の項目の多くと正の関係を示していた。専門性に対しては、「図書館」及び「UNIPA クラスプロフィール機能」の利用が正の関係を示していた。

		図書館	美術工芸館	キャリアセンター	保健室	コミュニケーションタイム	クラスプロファイル機能	リエゾンゼミナビ	tfuマイカルテシステム
知識・技能	多文化・異文化に関する知識の理解	.17**		.17**		.14**			.11*
	人類の文化・社会と自然に関する知識の理解	.17**		.14**		.15**		.16**	.11*
	社会や人生上の問題の解決に生かせる知識	.11*				.12**			
	自律・自立した学習を続けていく知識	.12**		.17**		.09*	.10*		
汎用的技能	話をよく聞き伝えたいことを表現できる	.10*		.09*		.10*			
	尊重しながらコミュニケーションをとることができる					.11*			
	レポートを作成することができる	.14**		.09*		.11*			.10*
	表やグラフを用いることができる	.11*	.09*	.14**		.19**		.12*	.15**
	ICTを用いて情報収集ができる			.09*				.105*	
	ICTを用いて過程や成果を表現できる	.11*	.11*	.11*		.10*	.12*	.12*	.09*
	多角的かつ論理的に分析できる	.14**	.09*	.12**		.16**		.16**	.13**
態度・志向性	自らを律して行動できる								.12**
	他者と協調・協働して行動できる			.10*					
	良心と社会の規範にしたがって行動できる								
	社会の一員として、積極的に関与できる	.14*		.11*					
創造的思考力	キャリア形成に取り組むことができる			.14**		.09*			.10*
	総合的に活用して学習活動できる	.16**	.13**			.15**			.12*
	問題の発見を楽しんだりできる	.14**				.11*		.10*	
専門性	問題について解決へ導くことができる	.14**		.12**		.10*			.13**
	所属する学科の専門的な知識が身に付いた	.11*					.19**	.12**	.10*
	所属する学科の専門的な技術や技能が身に付いた	.13**					.17**		
意欲	所属する学科が目指す専門職のもつべき倫理観が身に付いた	.11*		-.10*			.11*		
	学習に意欲的に取り組むことができる	.17**				.13**	.12**		.13**
	教員・友人と意欲的に関わることができる					.13**			

注1:表中、数値はスピアマンの順位相関係数

注2:有意な相関係数のみ掲載

* p<.05 ** p<.01

【資料1 学士力達成度・意欲の伸びの項目】

(1) 知識・理解

- 1) 2年次進級時に比べ、さまざまな文化や自分とは異なる文化の立場の人の考えや気持ち、行動をとらえるようになり、多文化・異文化に関する知識の理解ができた
- 2) 2年次進級時に比べ、歴史的文化的な事象や社会の事象、自然の事象について、その意味とその事象が起きた理由と自分との関連をとらえるようになり、人類の文化・社会と自然に関する知識の理解ができた
- 3) 2年次進級時に比べ、将来に出会う社会の問題や人生上の問題の解決に生かせる知識を学んだ
- 4) 2年次進級時に比べ、自律・自立した学習（自ら進んで、到達目標と学習計画を立て、実践し、自己および他者による点検や評価を行い、改善と見直しをするという取り組み）をこれから続けていくための知識や情熱を獲得した

(2) 汎用的技能

- 5) 2年次進級時に比べ、他人の話をよく聞き自分の伝えたいことをわかりやすく表現できるようになった
- 6) 2年次進級時に比べ、自分とは異なる意見を持つ人と互いを尊重しながらコミュニケーションをとることができるようになった
- 7) 2年次進級時に比べ、証拠に基づいてわかりやすく説得力のあるレポートを作成することができるようになった
- 8) 2年次進級時に比べ、表やグラフを用いて分析し、理解し、表現することができるようになった
- 9) 2年次進級時に比べ、インターネットなどの情報通信技術（ICT）を用いて問題解決のための情報収集ができるようになった
- 10) 2年次進級時に比べ、プレゼンテーションソフトなどの情報通信技術（ICT）を用いて問題解決の過程や成果を表現できるようになった
- 11) 2年次進級時に比べ、ものごとを多角的かつ論理的に分析できるようになった

(3) 態度・志向性

- 12) 2年次進級時に比べ、時間の管理や健康管理、感情や欲求の適切なコントロール、状況に応じた適切な対処行動など、自らを律して行動できるようになった
- 13) 2年次進級時に比べ、他者と協調・協働して、目標の実現のために、問題を共有し、方向性を示し、行動できるようになった
- 14) 2年次進級時に比べ、自らの良心と社会の規範やルールにしたがって行動できるようになった
- 15) 2年次進級時に比べ、社会の一員としての意識を持ち、人びとの幸せや地域・社会の発展のために積極的に関与できるようになった
- 16) 2年次進級時に比べ、自分をよく理解し、将来の展望を描き、キャリア形成に取り組むことができるようになった

(4) 統合的な学習経験と創造的思考力

- 17) 2年次進級時に比べ、実際場面で出会う課題について、これまで獲得したさまざま知識と理解、汎用的技能、態度・志向性を総合的に活用して学習活動できるようになった
- 18) 2年次進級時に比べ、社会を広く見わたし疑問に思ったり問題の発見を楽しんだりできるようになった
- 19) 2年次進級時に比べ、発見した問題について情報を集め、討議や調査などを行い、ねばり強く分析・整理して解決へ導くことができるようになった

(5) 専門性

- 20) 2年次進級時に比べ、所属する学科の専門的な知識が身に付いた
- 21) 2年次進級時に比べ、所属する学科の専門的な技術や技能が身に付いた
- 22) 2年次進級時に比べ、所属する学科が目指す専門職のもつべき倫理観が身に付いた

(6) 意欲

- 23) 2年次進級時に比べ、大学での学習に意欲的に取り組むことができるようになった
- 24) 2年次進級時に比べ、大学で教員・友人と意欲的に関わるできるようになった